



2020(令和2)年4月10日

保護者 様

神戸大学附属中等教育学校
校長 井上 真理

「スーパーサイエンスハイスクール」指定について

本校は、平成25(2013)年度～28(2016)年度に地理基礎・歴史基礎、平成29(2017)年度～令和元(2019)年度に地理総合・歴史総合に関する研究開発学校の指定を受けました。さらに令和2(2020)年度も継続して指定を受けています。平成27(2015)年度～令和元(2019)年度にスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受けています。また、平成26(2014)年9月にはユネスコスクールに認定され、ESDを推進しています。このたび、文部科学省より令和2(2020)年度スーパーサイエンスハイスクール基礎枠(指定期間5年：令和2(2020)年度～令和6(2024)年度)開発型(新規性のあるカリキュラム等の研究開発)に指定されました。Science, Research, Globalを軸にSSH事業を下記のとおり推進していきます。

記

1 「スーパーサイエンスハイスクール」について

「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」は、将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、文部科学省が先進的な理数教育を実施する高等学校等を指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を推進していきます。また、高大接続の在り方について大学との共同研究や、国際性を育むための取組を推進し、創造性、独創性を高める指導方法、教材開発等の取組を進めていきます。平成14(2002)年度より続いている文部科学省の事業です。

今年度は、国立3校、公立38校、私立15校、計56校が応募し、開発型(新規)9校(国立1、公立8)、実践型(継続)17校(国立1、公立1)、先導的改革型(SSH5期目)2校(公立1、私立1)、計28校が指定されました。

2 神戸大学附属中等教育学校の「スーパーサイエンスハイスクール」事業

(1) 創立10周年を機に、「教育目標」を「国際的視野を持ち未来を切り拓く、真理探究の精神に富んだグローバルキャリア人を育成します。『見つける力』『調べる力』『まとめる力』『発表する力』の4つの力とそれらを総合する『考える力』を、教科の学習はもちろん、『Kobeポート・インテリジェンス・プロジェクト』をはじめとする教育活動全体を通じて育成します」と、また「目指す生徒像」も「主体的に自己及び社会の未来を切り拓くことのできる生徒」「国際的視野を持ち、自他を認め合って行動できる生徒」「真理探究の精神に富み、新たな価値を創造する力を身につけた生徒」と再定義し、新たな価値を創造し続ける文理融合型人材を育成するため、SSHに申請することとしました。



(2) 研究開発課題 生涯を通じて新たな価値を創造し続ける文理融合型人材の育成
— Education for 2070 —

50年後に向けた社会の創り手となるためには、どの立場であれ持続可能な開発のための科学技術イノベーション(Science, technology and innovation for sustainable development, STI4SD)と無縁ではられません。50年後の世界の姿を想像することは困難ですが、真理の探究に携わる力、様々な事象に係る広く深い学力、そして主体性・協同性などの現在においても求められている資質・能力は、一時の流行に流されず、50年後においても変わらず社会を牽引するために必要であると考えられます。

そのためには科学技術は当然、倫理的・法的・社会的課題についての見識も必要となります。“Education for 2070”で育成を目指す生徒像を「生涯を通じて新たな価値を創造し続ける文理融合型人材」と位置づけ、SSH事業を通して、その人材を育成するカリキュラムを、教育活動全体にまたがり開発する研究に取り組んでいきます。

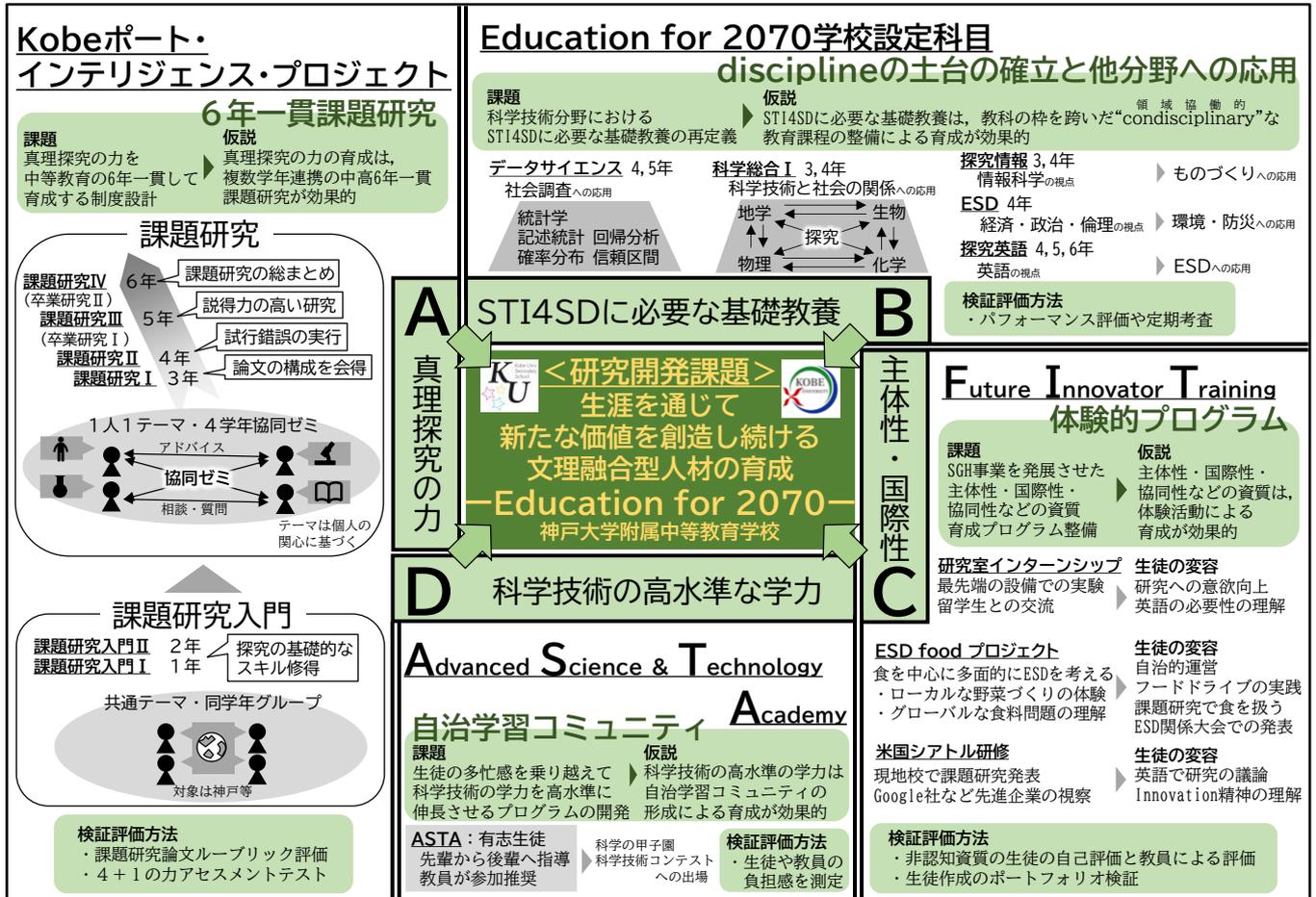
(3) 研究開発の目標・課題・仮説・研究開発単位の関係

研究開発単位	A Kobeポート・インテリジェンス・プロジェクト(KP)
育成する力	真理の探究に携わるための力
目標	真理の探究に携わるための力を育む課題研究のカリキュラム開発
課題	真理の探究に携わるための力を中等教育の6年間を一貫して育成する制度設計
仮説	真理の探究に携わるための力は、複数学年の連携を中心とした中高6年間を一貫させる課題研究カリキュラムの整備によって効果的に育成
取組の概要	課題研究として、第3学年～第6学年の個人研究を異学年協同ゼミにより指導。第1学年・第2学年ではその準備としてグループ探究による探究技能育成
研究開発単位	B Education for 2070 学校設定科目
育成する力	STI4SDに必要な基礎教養
目標	STI4SDに必要な基礎教養を育む文理にとられないカリキュラム開発
課題	科学技術分野におけるSTI4SDに必要な基礎教養の再定義
仮説	STI4SDに必要な基礎教養は、教科・科目の枠を跨いだ“condisciplinary”(領域協働的)な教育課程の整備によって効果的に育成
取組の概要	教育課程の特例を用い、第4学年を中心に、学問領域の協働を意識した学校設定科目「データサイエンス(DS)」「科学総合」「探究情報」「ESD」「探究英語」の設置
研究開発単位	C Future Innovator Training (FIT)
育成する力	STI4SDに必要な主体性・国際性・協同性などの資質
目標	STI4SDに必要な主体性・国際性・協同性などの資質を育成するプログラム開発
課題	SGH事業を発展的に継承して主体性・国際性・協同性などの資質を育成するプログラムの整備
仮説	STI4SDに必要な主体性・国際性・協同性などの資質は、教育課程内外の豊富な体験活動によって効果的に育成
取組の概要	大学等との連携のもと、研究室インターンシップ・海外研修等豊富な体験活動を実施
研究開発単位	D Advanced Science and Technology Academy (ASTA)
育成する力	科学技術に係る高水準な学力
目標	科学技術に係る高水準な学力を育む生徒による自治的・自発的プログラム開発
課題	多忙感を乗り越えて科学技術に係る学力を高水準に伸長させるプログラムの開発
仮説	科学技術に係る高水準の学力は、生徒による自治的・自発的な学習コミュニティの形成および加入の推進によって効果的に育成
取組の概要	生徒の自治的学習組織の立ち上げおよび初期活動の支援、国際科学技術コンテスト等の出場支援

(4) 研究開発事業の対象生徒 第1学年～第6学年までの全生徒



(5) 研究開発概要図



(6) 教育課程(次頁参照)

令和3(2021)年度4年生までは現行高等学校学習指導要領、令和4(2022)年度4年生からは次期高等学校学習指導要領に基づき教育課程を編成します。**斜体白抜き太字**は、SSHの研究開発に係る教育課程の特例を伴う教育課程の変更になります。学年進行で順次SSHの教育課程に移行していきます。SSHの教育課程は申請時のものであり、変更になることもあります。なお、SSHの教育課程においても、5・6年時は、「人文・社会科学類型」又は「自然・生命科学類型」に所属します。

(7) GAP(Global Action Program)からFIT(Future Innovator Training)へ

SGHでは「グローバルアクションプログラム(GAP)」を実施し、「GAP」に参加することにより「マイレージ」を獲得し、25キロマイル(地球1周相当)の獲得を目標としました。SSHでは「GAP」から「フューチャーイノベータートレーニング(FIT)」に衣替えします。これまでの「マイレージ」から「ポイント」に変更する予定です。また、SSH事業の性格上、学校が主催する国際交流プログラムは減少することになります。学校が主催するプログラムだけでなく、生徒自身が主体的に参加する校内外の活動も「FIT」のポイントとしてできるだけ認めていく予定です。自然・生命科学系コンテストへの参加、学会発表に限らず、人文・社会科学系の内容、ボランティアや文化・スポーツ活動等、様々な活動に積極的に参加してください。「FIT」への申請方法は、学年末までにお知らせする予定です。自身の活動を記録し、その活動を証明するものを必ず保管しておいてください。



☆ 教育課程表(10回生：現行学習指導要領でのSSH教育課程完成時)

課程 時期区分 学年 教科	前期課程				後期課程			
	基礎期		充実期		発展期			
	1年	2年	3年	4年	5年		6年	
					必履修	選択履修	必履修	選択履修
国語 385	国語 140	国語 140	国語 140 1単位分移行 (国語総合)	国語総合 4	現代文B 2 古典B 2	選択① 探究国語 1	現代文B 2 古典B 2	選択⑤ 探究国語 2
社会 350	社会 105	社会 140	社会 140 1単位分移行 (現代社会)	地理総合※ 2 歴史総合※ 2 ESD I		選択② 世界史B 3 日本史B 3 地理B 3		選択⑥ 世界史B 3 日本史B 3 地理B 3
数学 385	数学 140	数学 140	数学 140 1単位分移行 (基礎数学)					
理科 385	理科 140	理科 140	理科 175 2単位分移行 (科学総合I)	科学総合I 4		選択③ 科学総合II 2		選択⑤ 科学総合II 2
芸術 240	音楽 50 美術 50	音楽 35 美術 35	音楽 35 美術 35	音楽I 2 美術Iより 2 1科目選択				
保健体育 315	保健体育 105	保健体育 105	保健体育 105	体育 2 保健 1	体育 2 保健 1		体育 3	
技術・家庭 175 情報	技術・家庭 70	技術・家庭 105	技術・家庭 70 1単位分移行 (探究情報) 1単位分移行 (家庭基礎)	探究情報 1	家庭基礎 1			
外国語 420	英語 140	英語 140	英語 140	探究英語I 3 英語表現I 2	探究英語II 4 英語表現II 2		探究英語III 4 英語表現II 2	
理数				基礎数学 4 DS I 1	理数数学II 3 理数数学特論 2 DS II 1	選択① 理数数学II 1 選択② 理数化学 3 選択③ 理数物理 2 理数生物 2	理数数学II 4 理数数学特論 2	選択⑤ 理数物理 4 選択⑥ 理数化学 3
道徳	道徳 35	道徳 35	道徳 35					
総合	KP 110	KP 70	KP 70 (課題研究I)	KP 2 (課題研究II)	KP 2 (課題研究III)		KP 1 (課題研究IV)	
その他						選択④ 高大連携 1		
特別活動	LHR 35	LHR 35	LHR 35	LHR 1	LHR 1		LHR 1	
合計	1120	1120	1120	32	23	10	21	10

☆ 斜体は学校設定科目

※は、地理歴史研究開発学校に係る教育課程の特例（地理A，世界史Aの代替）

斜体白抜き大文字下線は、SSHの研究開発に係る教育課程の特例を伴う教育課程の変更

下線は、SSHの研究開発に係る教育課程の特例を伴わない教育課程の変更

二重下線は、SSHの課題研究に係る箇所

☆ 「KP」は本校における「総合的な学習の時間」・「総合的な探究の時間」の名称「Kobeポート・インテリジェンス・プロジェクト」の略

☆ 「DS」は「Data Science」の略称

☆ 太字は、後期課程の内容の一部を前期課程に移行し履修する科目(教科書購入)。それ以外でも後期課程の内容の一部を移行。

☆ 5・6年時は、「人文・社会科学」又は「自然・生命科学」類型に所属

☆ 5年時の選択 所属する類型並びに地歴及び理科に関する選択は、原則として6年時も継続

選択① 人文・社会科学類型は「探究国語」を選択 自然・生命科学類型は「理数数学II」を選択

選択② 人文・社会科学類型は地歴2科目を選択 自然・生命科学類型は地歴1科目と「理数化学」を選択

選択③ 人文・社会科学類型は「科学総合II」を選択 自然・生命科学類型は「理数物理」又は「理数生物」を選択

選択④ 希望者のみ選択。「高大連携」は大学が開講する科目を履修することを含む

☆ 6年時の選択 所属する類型並びに地歴及び理科に関する選択は、原則として5年時の選択を継続

選択⑤ 人文・社会科学類型は「探究国語」及び「科学総合II」を選択 自然・生命科学類型は「理数物理」又は「理数生物」を選択

選択⑥ 人文・社会科学類型は地歴2科目を選択 自然・生命科学類型は地歴1科目と「理数化学」を選択